

2. 認知症施策を着実に進めていくための、 各自治体ならではの企画と工夫を



2017年10月



- ・やることが山積み……
- ・待ったなしの案件が次々に…
- ・仕事は、認知症のこと以外にもたくさん！



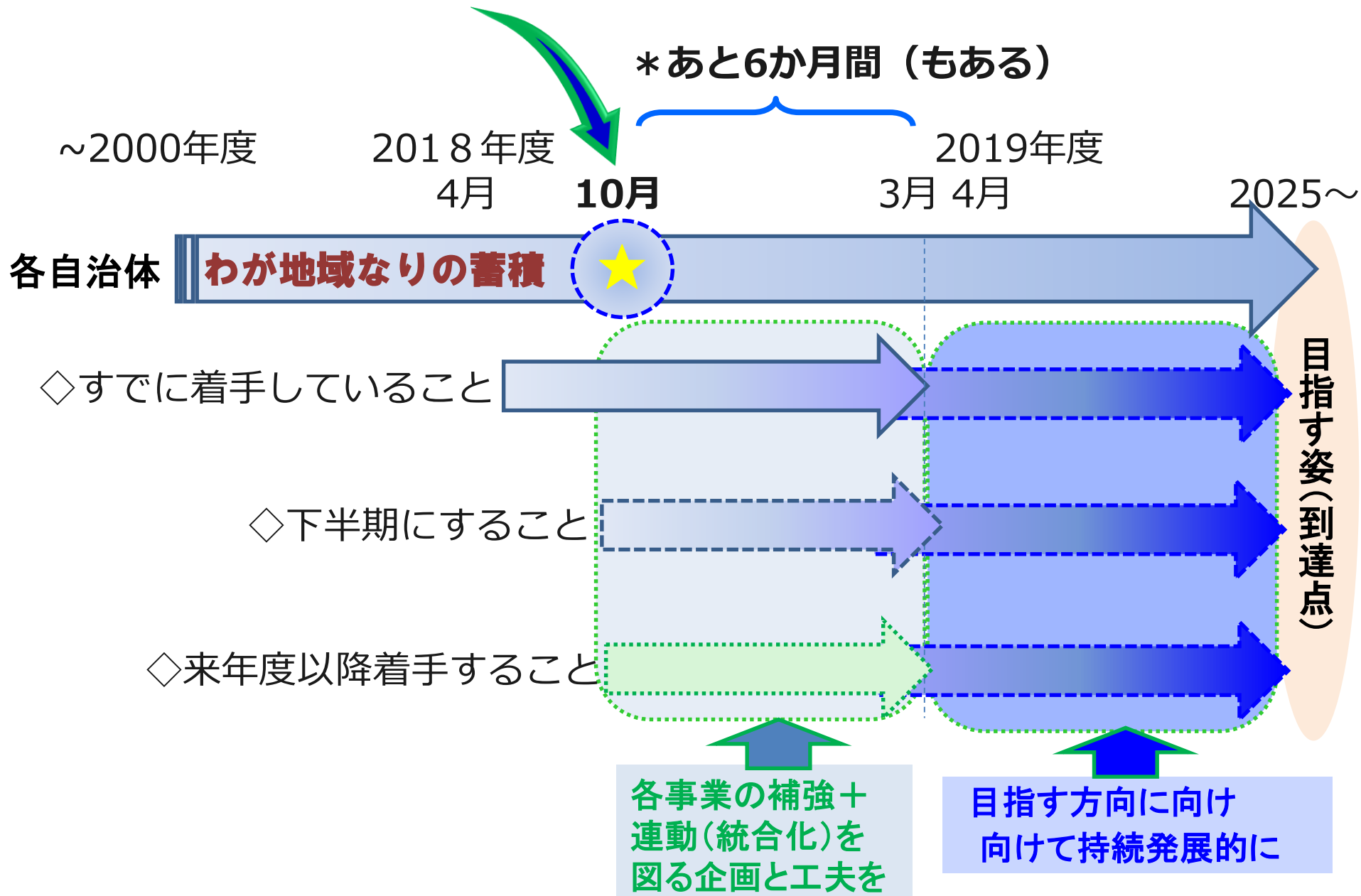
同じ事業をするにも、もう少し、工夫できることを発見！

自分の立場をうまく活かすと取組がもっとよくなる！

急がば回れ！ 焦らずに
この2日間を活かして

- ・少し立ち止まり振り返ってみよう。
- ・視野を広げて、
自地域の事業や取組をより効率的に展開するための企画と工夫を
* 自分の立場だからこそ
できることがある。

今:下半期のスタート。 そして、来年度以降の基盤固めの時期。



認知症施策を着実に進めていくために 各地の取組みを参考にしよう

試行錯誤

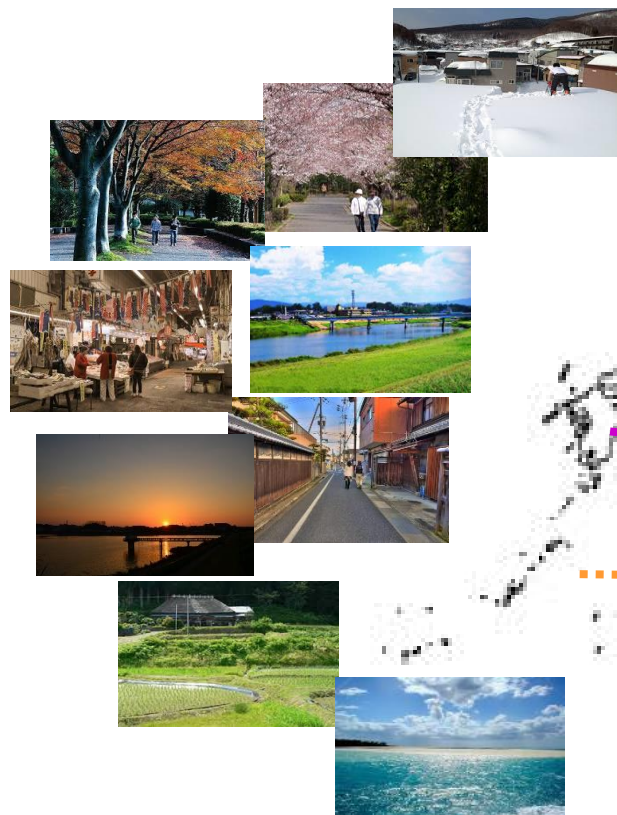
今やるべきこと・できることの確認

立場を活かして
一つでも

各自治体

わがまち
ならではの
アクションを

無駄・無理なく
持続発展的に



参考

視野を広げた、企画や工夫、アクションが広がっています。
認知症施策は、地域全体の活性化の試金石
～活かせることが豊富にある～

各自治体:それぞれの特性

認知症施策

高齢者施策

地域医療・
福祉施策
全般

自治体の
施策全般



認知症施策を通じて、
みんなが暮らしやすく元気な町に！

今の時期の重要ポイント

(着実な取組を展開している自治体の共通点)

1. 何のための事業・取組か
* 目指す姿や目的を一緒に
(再)確認しながら

2. 本人・家族の声を聴き
話し合う機会を作る
* 中間点検と改善を

行政担当者・
関係者が
日々の中で
意識的に

3. 本人がたどる流れにそって
事業・人の(小さな)連動を図る
* 地域にあるものをつなぐ・
組み立てる

4. 推進チームを育てる
* 地域にいる人材を
大切に、持続発展を
牽引する体制を作る

1. 何のための事業・取組か

＊目的を一緒に(再)確認しながら



- ・下半期、やることが目白押し
- ・関係者も、かなりの数に上る

→事業・取組を、「やることが目的」になりがち ＊事業は「手段」!

→「目指す姿」やそのための「目的」が共有・浸透されないままでは、とりあえずやっておしまいになりがち

→(一時盛り上がっても)ふだんに活かされない。持続発展しない。先細り。



自分の市町村で何を目標しているのか、
この事業・取組は、何を目的にしているのか。

＊名目の説明ではなく、「我がこと」として考え確認しあおう。

- ・行政の関係者が、あらゆる機会に＊秋以降の様々な機会を活かそう
- ・様々な人と「目指す姿」「目的」を、語りあおう。



サポーター養成講座で



サロンやカフェで



医療・介護・支援の
関係者に向けて



研修会や報告会で



子どもたちに向けて



企業に向けて



委員会や様々な検討会、議会で



＊行政関係者の「本気の一言」「語り合い」を待っている人が大勢いる。
→地域の人材・潜在力が浮かび上がる。

「一緒にやりたい」「協力するよ」「自分たちが動くよ」

2. 本人・家族の声を聴き、話し合う機会を作る ＊中間点検と改善を

これまで:地元で暮らす本人・家族の声を聴かないまま、
施策・事業や取組みを企画し、動き出してしまいがち。
→せっかくやっても、わかりにくい、利用しにくい、役立たない、力を削いでしまう場合も

今の時期:ここまでの事業・取組を、本人・家族の声を聴きながら点検してみよう
今後企画・準備していることについて、本人・家族の声を聴いてみよう。

- ・一つの事業・取組からでも
- ・一人の声からでも
- ・行政職員だけではなく、関係者の力を活かして一緒に



地元の本人・家族からみると・・・
どう思っているだろうか。
どうあったら実際よりいいか

話せる機会があったら、
気づいていることや
願いがたくさんあるよ～。



まずは、一人からでも、

- ・ 本人・家族の声に耳を澄ます機会をつくる
- ・ 聴いておしまいにならないで、
本人・家族の視点で、関係者が一緒に話し合ってみる

＊特に、「本人の声」を大切にする姿勢を行政が示す！

- ・ じっくり聴けていない（身近な人たち、実は専門職も）
⇒ そのこと自体が、本人の存在不安を強め悪化の引き金
⇒ 「声を聴く」地道な積み上げが、
よりよい暮らし、よりよい地域の礎になる

＊「一人の声」の中に、地域課題が凝縮されている

- ・ 何が起きていて、何が課題なのか
- ・ 何があったらいいのか、誰がどこで何をできるのか
⇒ 何からやるべきか、何ができるか、具体的に浮ぼりになる



とにかくやっていたけど、
本人の話しをきいたら、
やるべきこと、できることが
具体的に見えてきた！

一人でも

10月の今こそ、本人・家族の声を聴き、話し合う機会を作ろう
この（小さい）動きの付加価値は大！

＊今年度の中間点検を
少しでも改良を

本人・家族からみてどうか

- ・わかりやすいか
- ・利用しやすいか
- ・実際に役立つか
- ・素朴な思いや願いは

⇒事業の方向性の確認、
内容の見直し、
改善点、補強策の検討

⇒今やると、下半期が
パワーアップする。

＊事業全体でなくとも、
1事業でも中間点検を

例) 認知症カフェ、啓発
初期初期支援、地域支援等

＊下半期、来年度以降に
実質役立つ企画を

本当に必要なことを企画

- ・内容や方法を工夫、
協働相手を広げる
- ・来年度の計画が、実質的
なものになるよう予算化
- ・取組を今後も持続発展
させていくための関係者
との話し合い、調整を
年度内に丁寧に

⇒今時点での仕込みが
来年度以降の基礎に

＊個別地域支援が
広がる契機にしよう
この人のために一緒に

一人を中心に
関係者が一緒に
地域で支える
きっかけにしよう

⇒小さな成功体験が
生まれる

⇒自発的な連携・協働
個別地域支援が
自然と広がる

今ある機会、今後の集まりの場を活かして
本人・家族の声を聴きながら一緒に話し合う機会を作ろう、呼びかけよう
＊本人の声、家族の声、それぞれを丁寧に



今困っている一人の
話し合いで



担当者会議で



多職種での事例検討会や
初期集中支援チームの
チーム員会議で



認知症ケアパスや
認知症カフェの
検討会で



定例の集まり、勉強会等で
・民生・児童委員
・介護支援専門員
・介護事業者
・医療関係者 等



地域ケア会議で



多職種の多資源の
研修会 等で



計画策定の会議で

★特に、本人の声を丁寧にとらえよう（家族の声を聴く場合も）

本人の声が起点になって、本人、そして家族がよりよく暮らせる連鎖が生まれる

本人のことばより

- 認知症を特別にしたところは、行きたくない。
- 「支援してあげる」という人からは逃げたくなる。
ふつうに一緒に楽しんでもくれる人だと嬉しくなる。
- 自分の時間がいとおいしい…。周りであれこれ決めないで。
- もっとやりたいことがあるんだけどな。
- わかりやすい資料や説明文書がない…。
今あるのを読むと落ち込む。 →「本人ガイド」を
- 家族からも、職員さんからも、しないでいい、あぶない…、
そればかりいわれる。
情けない。いやんなる。どうしたらできるか、一緒に考えて。
- 世話になる一方は、つらい…。
おとうちゃん(夫)やこどもたちのためになりたい。
- 外にでたい！ 気晴らししたい！ 働きたい！

地元の本人の声に耳を澄まそう⇒やるべきこと、改善点が具体的にみつかる。

★本人ミーティング

地元の今ある場を活かして

本人同士が気軽に集まれ、本音で語り合える機会をつくろう

→「声」を暮らしや地域に活かそう。

★家族や支援者には、語れない思いやニーズがある。

⇒施策や事業、医療・介護、地域の支援の具体策が豊富にみつける。

★認知症の体験をしている仲間に出会えると・・・

- ・本音で語れる。

⇒重荷を(少し)おろせる。解放される。

- ・想像以上に、語れる。思っていることを伝えられる。

⇒真のニーズがみえてくる。

- ・本人同士で、励まし合い、支え合い、
落ち込みから脱出して、前向きになっていく。

★各地で、行政、医療・介護関係者が一緒に開催する
本人ミーティングが広がっています。

全国各地で、支援者とともに 認知症の仲間に出会い、語り合い、声を暮らしに 活かしていく場（本人ミーティング）が広がっています



地域食堂で(北見市)
主催:介護・医療の
地域ネットワーク



認知症カフェで(国立市)
主催:地域の医療機関/
在宅療養相談室



駅近の交流スペースで
(仙台市)
主催:本人、家族、医師、
ケア関係者等、地域
の多職種の自主組織



町役場の多目的室で
(綾川町)
主催:地域包括
支援センター



小規模多機能事業所で
(上田市)
主催:社会福祉総合施設



介護施設の交流スペースで
(大牟田市)
主催:ケア関係者の研究会

- 同じような体験をしている人と話せてうれしかった。自分もいろいろ言えて、元気が出た。
- 自分たちが言わないと、わかってもらえない。自分たちが話すことが、まちをよくすることに役立つんだと聞いて、胸がすく思いがした。
- 仲間が欲しい。認知症の人同士で話し合える場所がもっと近くにほしい。
- 診断後すぐ、先生(医師)がこういう場につないでほしい。
- 家族がいろいろしてくれるのはありがたいが、心配しすぎ。
- できることを奪わないでほしい。失敗しても怒らないで。
- (医療や介護の人は) 家族と話している。自分に話してほしい。
- 家族に頼らないで誰かがいてくれて、出かけられるように。
- 自分が自分でいられる場がほしい。
- 自分のやりたいことがいろいろある。今のデイサービスでなく、もっと自由な場があるといい。
- 自宅で暮らせなくなった時) 家のように自由に暮らせて、やさしく助けてくれる人いる場所がありがたい。
- 認知症施策を作る時に、自分たちをいれたら変わるのではないか。本人の声を行政に届ける仕組みがほしい。
- 「私、認知症です」と言える社会に。

同席・同行した人の声

○話せるか心配だったが、自分から話していた。驚いた。(家族)

○帰り道の(本人の)足取りが軽く、とても嬉しそうで私も嬉しくなった。(家族)

○知らないことを楽しそうに話しておられた。もっと新鮮にきかなければ。(介護職)

○ふだんと生き生き差が全然違った。他の職員にも参加してもらい、一緒に変えていきたい(病棟看護師)。

○こうした場があれば、大事なこと、やるべきことが具体的にわかる！(地域包括支援センター)

○やってみたらうちの地域でもできた。自分の方が元気と勇気をもらった。続けていきたい。(行政事務職)

※ 平成28年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業)「認知症の視点を重視した生活実態調査及び認知症施策の企画立案や評価に反映させるための方法論等に関する調査研究事業」 本人ミーティング開催ガイドブック <https://www.ilc-japan.org/study/> をもとに作成

「話せる人は「この人は無理」、と決めつけず
本人同士が語り合うチャンスを作り「語り合い」を育てていこう。

本人の声を起点に本人とともにやさしい地域をつくろう



① 本人にとってのよりよい暮らしガイド

- ①「本人ガイド」で、本人が前向きに進むきっかけを。
- ②「本人ミーティング」で、一緒により良い暮らしと地域を。
- ③「自治体向けガイド」で、関係者が一緒に効率的に。

② 本人ミーティング開催ガイドブック



③ 本人の声を起点とした認知症地域支援体制づくりガイド



厚生労働省のホームページから、
3つのガイドをダウンロードできます。

厚労省 認知症施策関連ガイドライン で、検索！



3. 本人がたどる流れにそって、事業・人の(小さな)連動を図ろう

＊地域にあるものをつなぐ・組み立てる

- ・市町村内にせっかくある事業・関係者が、バラバラに動いていないか。
- ・「認知症ケアパス」で盛り込んだ資源が、つながりあっているか。

→本人がよりよく暮らしていくために、本人が辿る流れにそって事業や人をつなぐ企画・工夫を。



事例: 様々な事業を行ってはいるが、**単発イベント**で終わっていた。
地元の本人に役立つように、つなげる企画・工夫を試みた。

*** 中学校での認知症サポーター養成講座から声かけ訓練、啓発の流れをつくろう**

★5月26日 学校との打ち合わせ * **企画を一緒に丁寧に**



学校の先生としっかり事前打ち合わせを行うことが重要！
学校・先生にとってメリットがあるように！



★7月5日 認知症サポーター養成講座



★7月14日 アイディア出し（カードワーク）の勉強



★9月22日 認知症サポーターとしてできることを検討



**地域に出かけて認知症の啓発
活動をしよう!!**



推進員の事業（声かけ訓練）
の一環として実施

（京都府向日市認知症地域支援推進員石松さん）

★10月6日 地域に出かけて調査活動 1



調査活動 1
公民館・コミセン2か所
地区社会福祉協議会・民生児童委
員のみなさんと



★10月20日 地域に出かけて調査活動 2



調査活動 2
グループホーム・デイサービスの
利用者や職員にインタビュー



★10月25日 地域の方を招いて調査活動 3



調査活動 3
コンビニ・不動産会社・ボラン
ティアから活動報告と意見交換



★10月27日 調査活動の振り返り・啓発チラシの検討



★11月1日 啓発活動当日に向けた準備



商店や市民にしっかり説明で
きるように！

★11月2日 チラシ完成



中学生の想いを市民へ
調査活動の内容も組み込んで

★11月8日 啓発活動当日

調査活動でお世話になったみ
なさんと一緒に いざ地域へ！



認知症 声かけ訓練実施中！

私たち勝山中学校1年生も一緒に取り組んでいます！
ご協力お願いいたします！

認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して、
地域の方が認知症を正しく理解し、ご本人の気持ちに配慮した
声かけや見守りができるよう、認知症高齢者への声かけ体験
を実施しています。



裏面もみてください。
一生懸命考えました！

声のかけ方（一例）

- ① ゆっくり近づいて、おだやかにやさしい口調で話す。
- ② 「こんにちは」「寒いですね」など、ごく普通のあいさつから始める。
- ③ 「何かお困りですか？」「大丈夫ですか？」など、わかりやすい言葉で声をかける。
- ④ 相手のペースに合わせて、笑顔で接する。
- ⑤ 急に後ろから声をかけたり、大声で怒鳴るような声かけをすると混乱される場合がある。
- ⑥ 上から見下すような態度、急ぎ足で立ち去るなど、急に離れようとする態度は避けたい。
- ⑦ ゆっくり近づくと、警戒心
- ⑧ ゆっくり歩きな
- ⑨ 声をかけてもよ
- ⑩ 迷った方に誘導

みんなが住みよい町とは!?

本訓練の実施にあたり
勝山中学校1年生は考えました！

調査では、地域の様々な方たちが高齢者を支える活動をしていることが理解できました！



私たち中学生ができること！！

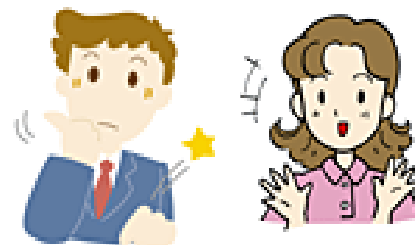
- ・近所の人たちで支え合えるように日頃から笑顔で挨拶をする。
- ・困っている方を見かけたら、やさしく声をかける勇気を持つ。
- ・相手の気持ちが理解できるように視線を合わせてコミュニケーションをとる。
- ・電車やバスで席をゆずったり、荷物を持ったり、私たちが手伝う。
- ・ボランティアなどの活動に参加する。
- ・町のルールを守る。
- ・ちょっとした気遣いができるようになる。
- ・地域に認知症の理解を深めるため、声かけ訓練に参加する。



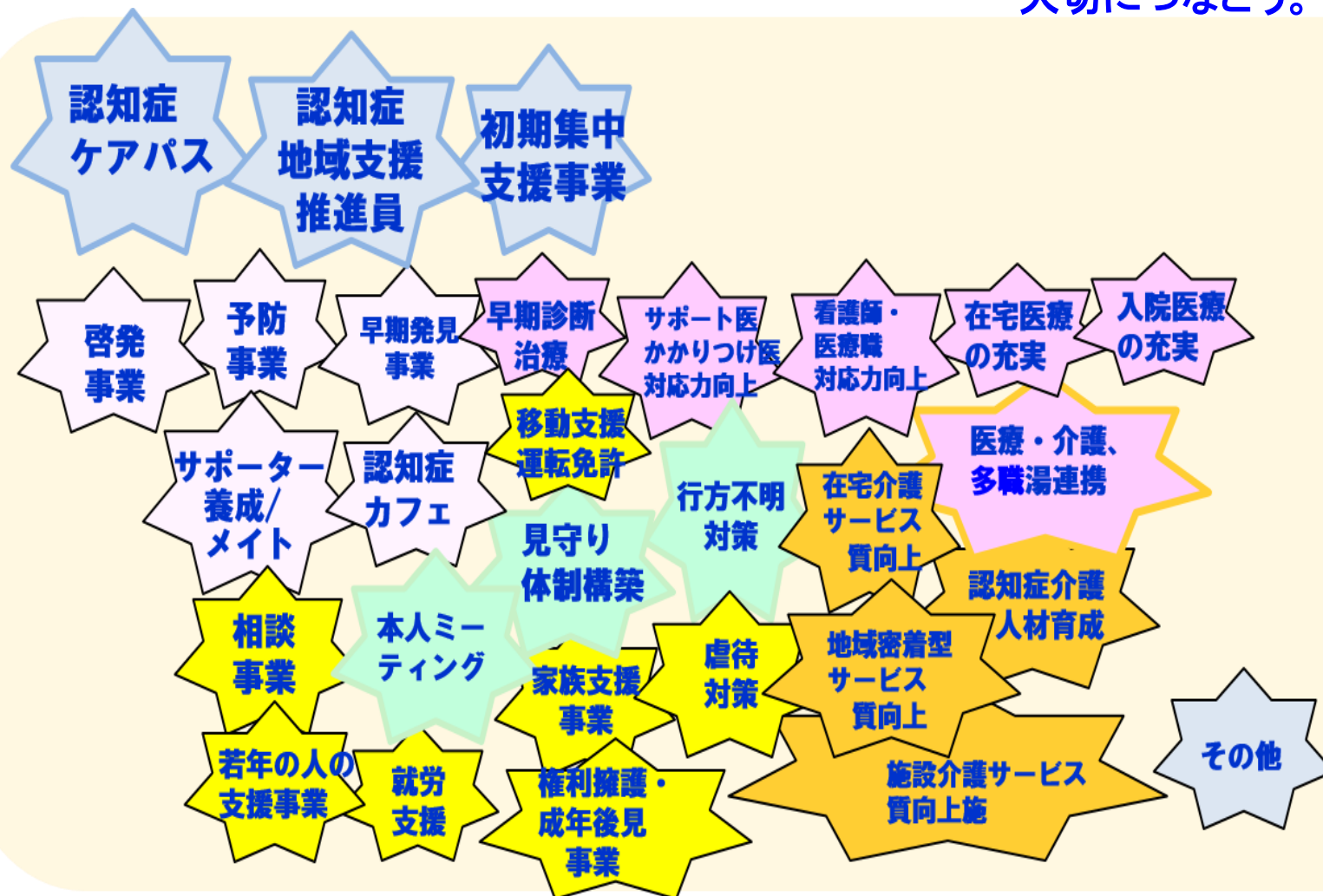
大人になっても ずっと
忘れずにいたいと思います！！

どこが繋がると、本人が暮らしやすい 流れがうまれるか？

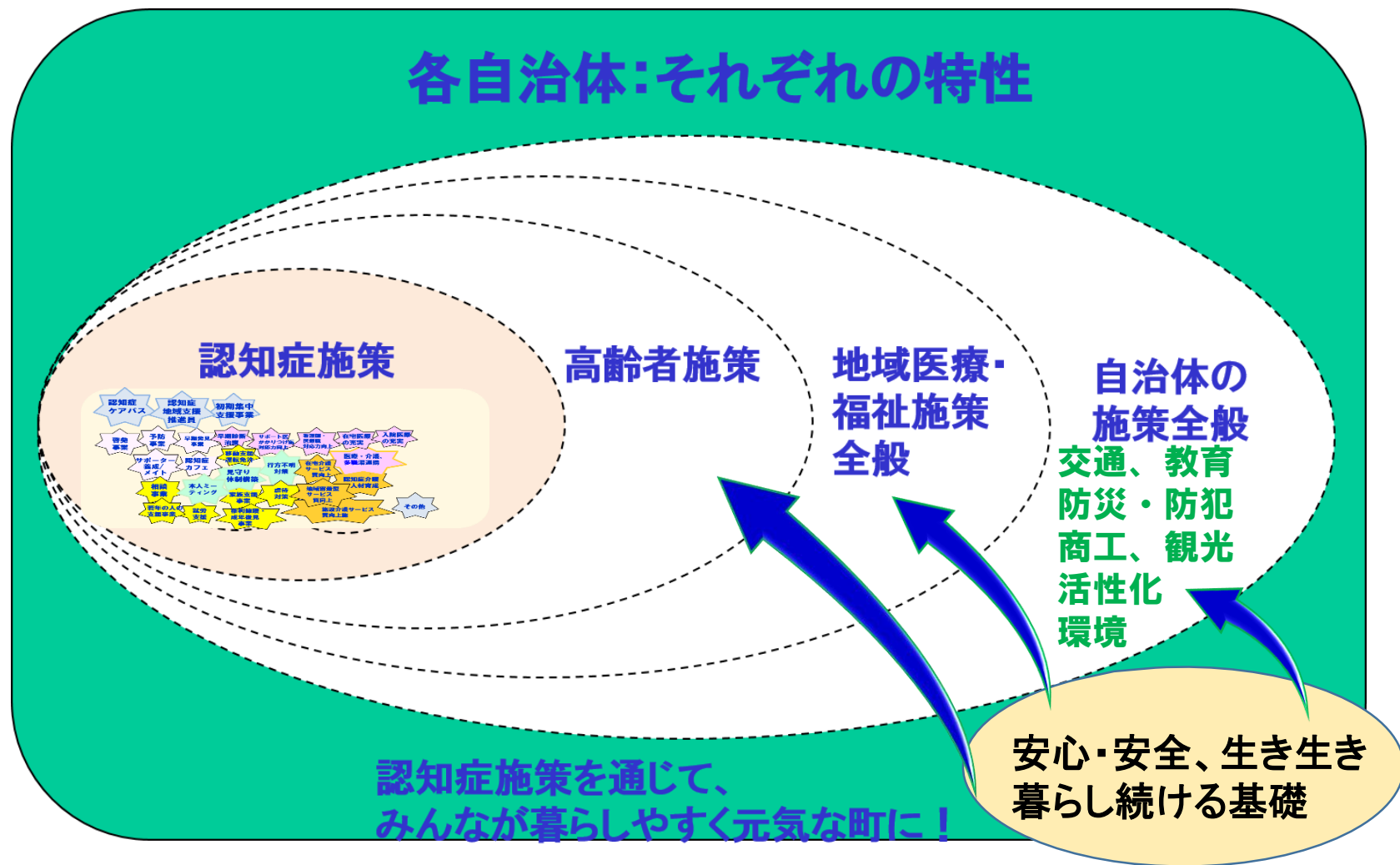
* 事業をつなぎ、組立てていくのが
行政関係者ならではの大事な役割



せっかくあるもの、関係者を
大切につなごう。



本人が暮らしている流れをよくみると、
認知症以外の施策・資源の中にも(中にこそ)、
本人がよりよく暮らしていくための貴重なきっかけが豊富にある。



行政関係者:行政全般・関係者をつないでいける大事な立場
(★事務職、技術職:それまでの仕事・個別のつながりを活かして)

参考 農業関係者といっしょに総活躍のまちづくり

認知症の人が市の産業振興に貢献 ★総活躍の一人

(和歌山県 御坊市)



町のみんなが愛着をもっているものを入力に



ていねいに刈り取り



介護施設で袋づめ作業をいっしょに
楽しみながら、思いをこめて。

○スターチスが特産品

花言葉:

「変わらぬ心」「途絶えぬ記憶」

⇒★町の特産品を

認知症支援、地域支援のシンボル
合言葉にしよう！

→ JAとの協働(地場産業との連携)



スターチスグッズが
大好評



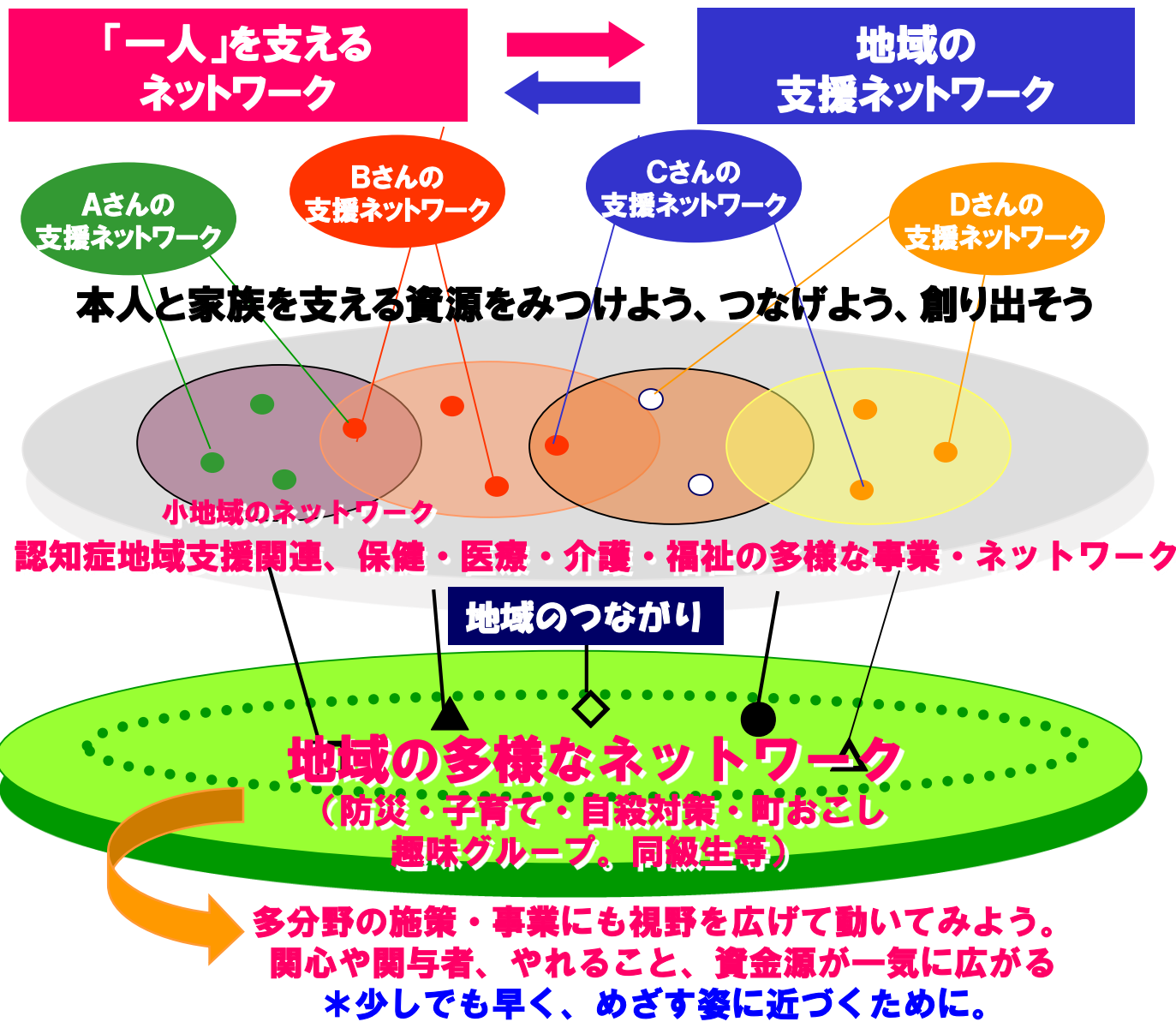
さまざまな人に
大切なことを
バトンタッチ！

分野を超えたつながりを通じ
夢のある企画とアクションが
次々生まれています。

地域を舞台に、ひたすらつながる・つなげる

人を、取組みを、ネットワークを、事業をつなげる

＊自分がまずつながる：アンテナをはり、出向いて、話し合っ



4. 推進チームを育てる

＊地域にいる人材を大切に、持続発展を牽引する体制を作る

行政や地域包括支援センターが頑張りすぎず、実質的な活躍をする人材・チームを大事に

＊ わがまちのことを真剣に考えながら、
自ら動いている人/動いていきそうな人と
出会おう(地域の人、専門職)。

⇒どのまちにも、必ずいる！(力を発揮しきれずにいる)

＊ よく話しあい、関係をそだていこう(つきあう)。

＊ それらの人たちがつながりながら
「一緒に取組んでいく仲間(チーム)」となる機会を作る。

例: 集まり、課題やアイディを出し合うアクションミーティング、
意見を行政に伝える機会 など

＊ 推進チームを育てることが、行政ならではの大事な役割。

⇒結果として、内実を伴った連携・地域支援体制づくりが持続的に発展する。

★行政、地域包括支援センターの重要なパートナー

推進役として伸びていく貴重な人材が町の中にいる！ 行政からの声かけ、きっかけ・出番を待っている。



医療・介護の合同チーム
行政の呼びかけで
医師や多様な医療職、
介護職等がチームを結成



**推進員と指導者が
地域密着サービスの職員と**
豊富な知識・スキル・
経験を有している人達
が地域で結集



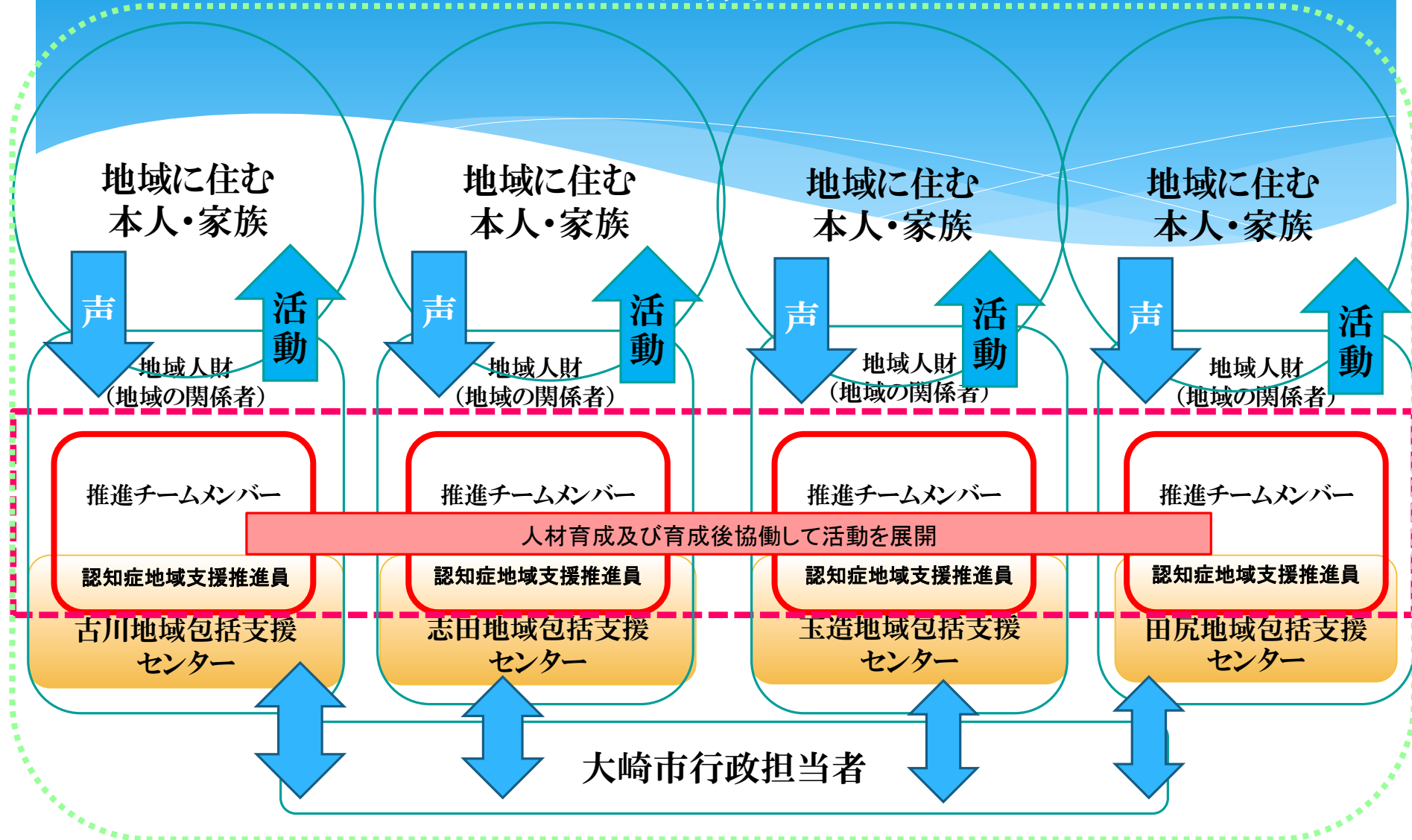
推進役を手上げ方式で
行政が毎年募って、
一緒に学び合い、話し合い
小地域ごとの推進活動を。
* 住民と専門職の合同チーム

各市町村の実情に合わせて、当事者や現場の人たち、地域の人たちの声をよく聞きながら、推進チームをいっしょに育てていこう

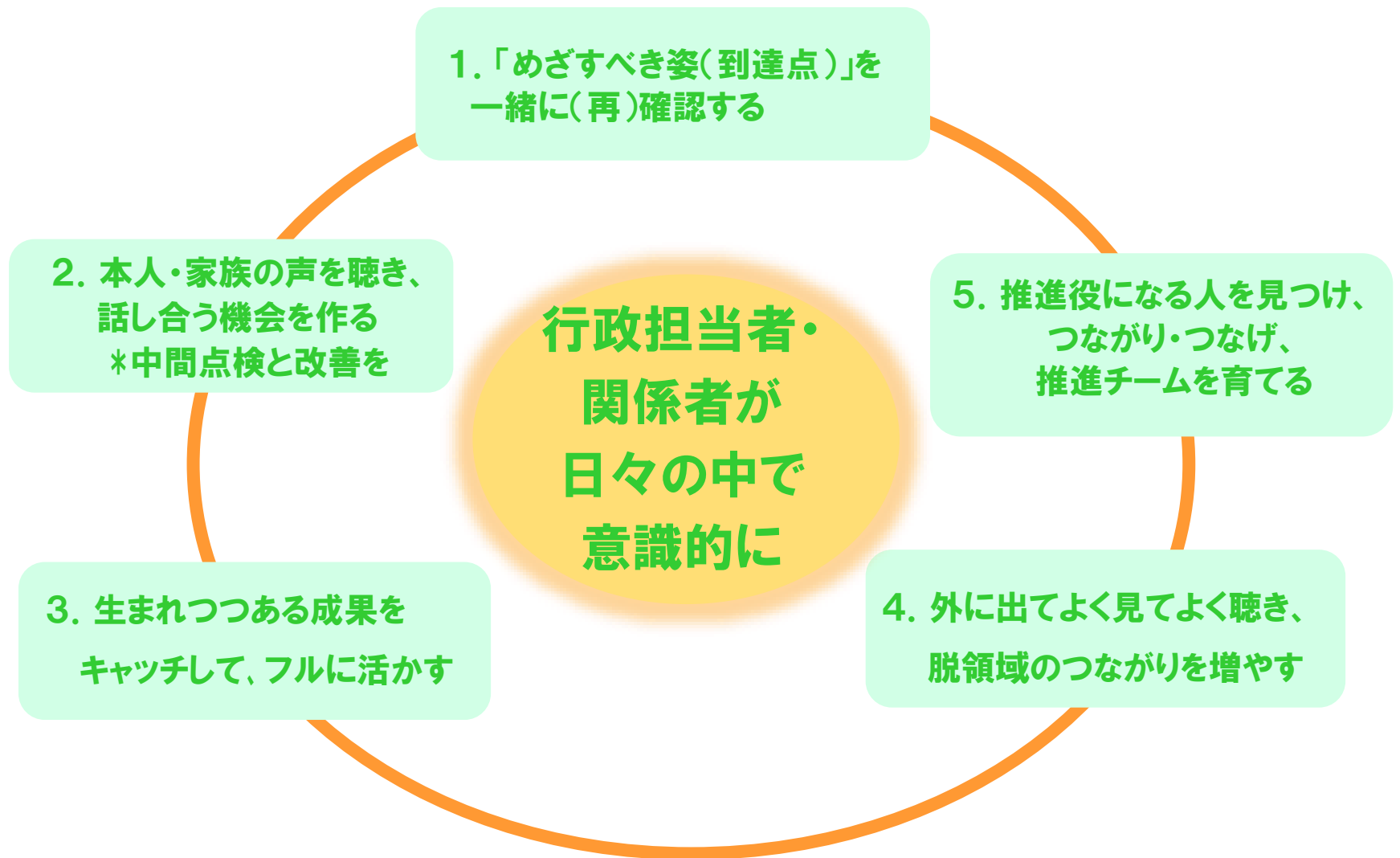
- * 今の時期が話し合いの好機。
- * 来年度以降、計画的に。

参考：市として事業計画を作り、毎年継続的に人材・チームを育成⇒エリア単位で活躍
宮城県大崎市

人材・チーム育成のイメージ図

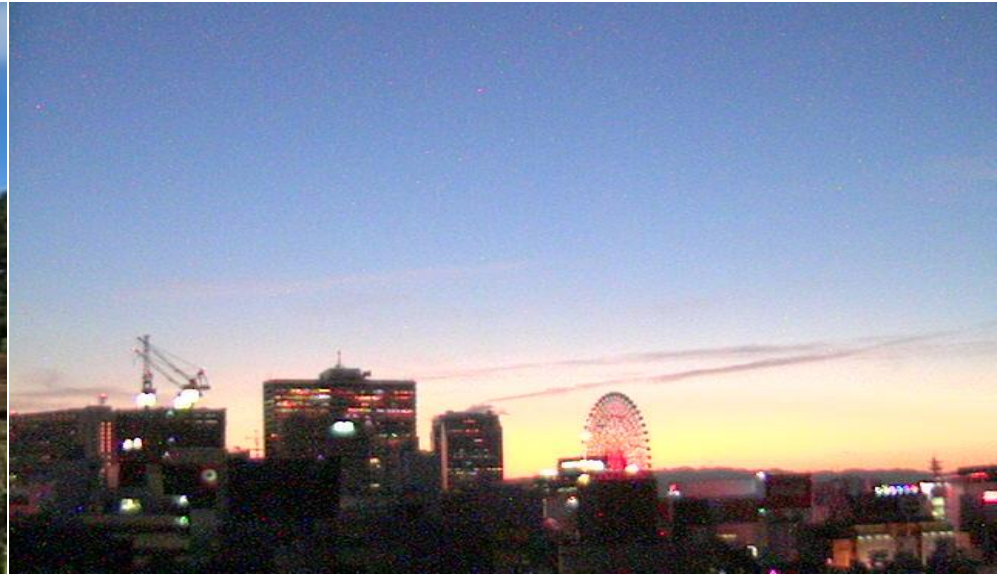


※1クール2年とし、継続して育成(クール終了後も継続しメンバーとして活動可能)⇒地域ごとにとともに活動する仲間が増えていく



＊29年度下半期をよりよいものに
＊30年度以降の基盤をつくろう

それぞれの市町村ならではの、歩みやあるものを大切に。
地域のチカラを丁寧につつま、つながり、活かし合いながら。



お知らせ

行方不明を防ぎ一人歩きを楽しめる町づくり 全国フォーラム 2018

日時 11月2日(金) 10時～16時(予定)

場所 朝日ホール(有楽町)

- * 都道府県へご案内させていただいております。
- * 今後、体制構築と一緒に進めたい多様な関係者にも
周知と参加の勧めをお願いします。
- * お申込みは、直接、東京センターへ

ホームページ DCネットを参照。